

ノア Smile

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.kasukabe-saintnoah.jp



誕生日会

居酒屋やかき氷にチョコバナナフルーツ飴もありますよ～(*^*)v

みんなのワイワイの日だ～

美味し～

皆で早口言葉を言って楽しみました♡

「地味な爺やの、自慢の地酒」や「この子なかなかカタカナ書けなかったかな？だから泣かなかったかな？」などなど。長くてむずかしい～(>_<)

箱の中身はなあにかた？

箱の中身を触った手の感触で当ててみて(@_@)
意外と難し～い(>_<)
サツマイモかな？
はてさて、人参かな？
ジャガイモかも？

～目次～

- 病院短信『レビー小体型認知症』 渡辺 弘子
- 患者さんの日常エピソード 宮川 妙子
- いきいき看護・介護 加藤 千亜希
- PSWだより 渡邊 正基
- 誕生日会 各病棟デイルーム
- スタッフ紹介 金子 恵美子

11月の予定

- ◆ ミニ秋祭り
11月17日(火)
- ◆ 誕生日会
1病棟 11月 9日(月)
2病棟 11月11日(水)
3病棟 11月 4日(水)
各病棟デイルーム 14:00～



サラ0歳時

スタッフ紹介

栄養科
かねこ えみこ
金子 恵美子

“人に喜ばれる仕事をしたい”
と長年勤めた工業系の仕事から転職しました。
パートから入職して1年になります。
休日は趣味のカフェを巡ってインスタアップして楽しんでいます。
また、精神世界(スピリチュアル)に興味があり心理カウンセラーレイキヒーリング、数秘術セラピストの資格を取得し、心と体を癒せるヒーラーセラピスト目指して日々学んでいます。

病院短信 2病棟 看護師長 渡辺 弘子



『レビー小体型認知症』
 認知症といっても症状の違いがあり、アルツハイマー型認知症に次いで2番目に多い疾患とされているのがレビー小体型認知症です。特徴的な症状は、実際にはないものが見える幻視、大声での寝言や行動(レム睡眠障害)です。眠っている間に怒鳴ったり、奇声を上げたり、暴れたりするなどの異常言動が目立ちます。手足の震えや小刻み歩行などのパーキンソン症状がみられることもあります。頭がはつきりしていたり、ボーっとしたり日によって変動することも特徴的です。患者さんによって症状の現れ方は異なりますが、施設やグループホームでの対応が困難なので当院に紹介で入院されてくるケースも多く見られます。2病棟入院中の患者さんもレビー小体型認知症の方が多くなっているように感じます。
 レム睡眠障害を持つ患者さんの対応は難しく日々、情報を共有し対応策を話し合います。「〇〇のような工夫をしたら対応したら良眠できた」という情報から同じ対応しても「今日はだめだった」などの繰り返しです。
 もう、お亡くなりになった方ですが、施設ではベッドに横になって寝たことがなく、いつも椅子でウトウトされる程度の睡眠だったようです。薬の副作用からか首はうなだれ床しか見ることができません。歩行も不安定で常にマンツーマンで職員が付き添っていました。
 原因となる向精神薬を切ったところ、だんだんに顔が上がってきて目を合わせて会話することができ、笑顔が見られるようになりました。夜はベッドをデイルームへ移動し患者さんの動きに直



ぐ気付ける体制を取り、体動があっても危なくないようベッド柵は布団や布で囲みました。時間はかかりましたがベッドで入眠できるようになりました。
 特徴的な妄想は、イライラや怒りを伴うことがあります。言葉掛けだけでなく、手を握ったり、背中をさすったりすることで心が落ち着く場合もあります。
 辻川先生が「レビー小体型認知症の人は疲れやすいの」と、よくおっしゃいます。症状の現れ方は違いますが、ひとりひとりに安心感を与えられ穏やかな生活ができるよう支援したいと思っています。
 コロナ禍という中、これからの季節はインフルエンザも流行する時期となりました。例年でしたら11月に行う予防接種を10月中に終えました。職員一同感染対策を徹底して患者さんの安全を守りたいと思っています。新型コロナウイルスのワクチン投与が出来るまで、この不便な生活は続くと思います。ご家族の方々にも制限付きの面会にご協力頂きありがとうございます。引き続きこれからもよろしくお願い致します。

患者さんの日常エピソード



茨城県に8人兄弟の末っ子として生まれ育ち、川口市の姉を頼って上京、NTTの設計部に入社され定年まで勤め、その後も嘱託で2年間勤務されました。

結婚し、2人のお子さんにも恵まれました。「仕事熱心で、頑固でわがままな人でしたが、反面、子ども達には優しく子煩悩なところがありました」と奥さまは振り返って話されます。

多趣味でテニス・スキー・ゴルフ・陶芸を楽しまれたようで、今もガッチリとしたスポーツマンらしい体格です。物忘れが出現し、H25年頃より、施設・病院を転々とされ、H31年4月当院に入院されました。その頃は支えれば歩行も出来、食事の声かけや一部介助によりご自分で食事が出来ていました。認知症の症状は進行しましたが、激しい精神症状は落ちつき、何より大きな体調不良や、治療行為もなく過ごされたことが一番です。最近では身体の拘縮が目立ち車イスで過ごされていますが「照雄さん」と声かけすると「はいよ」と親しみやすい、ひょうきんな声で笑顔が返ってきます。

また、食事を介助していると、ゆっくり噛み、ゆっくり飲み込みとても慎重です。(誤嚥性肺炎を予防する上でとてもいいことです)

会話は成立しなくなりましたが、「そんなこと聞いてみなきゃ分からないよ」と照れくさそうに笑いながら話される言葉は、周りの人を和ませ、私たちスタッフもつい笑ってしまう魔法の言葉です。そして、奥さまのご面会の時は普段見ない優しい表情をされています。奥さまにお声をかけると「最近、反応が少なくなりました。この病気になったことは残念で仕方がありません。元気に今があるなら、もっともっと2人で、小さくてもいい、楽しみを一緒に感じ味わいたかった。そんな日常を2人で過ごせたらと思うことがあります……」と目を落とされます。(その通りですね)

照雄さんがこれからも、笑顔で元気に過ごされるよう沢山声かけをし、ご一緒していきたいと思ひます。



3病棟 看護主任 宮川 妙子

2病棟 介護福祉士

加藤 千亜希



今年は大々的な行事、秋祭りもなく寂しい秋になるのかなと思っていました。11月17日にミニ秋祭りをやることになり、患者さんにとって楽しみが増えたと思います。普段のレクリエーションもズンドコ節や花笠音頭を練習し、本番に向けて頑張っています。出店がないのが、少し残念ですが職員一同盛り上げていきたいです。コロナが早く終息して、来年は患者さんと花見や秋祭りを満喫したいです。

最近、寒くなってきているので、自分も自覚をもって節度ある行動を心がけて、体調管理に気をつけて過ごしていきます。



精神保健福祉士

渡辺 正基

PSW

だより

当院では9月中旬から予約制での面会を再開しましたが、改めてご家族と過ごす時間が患者さんにとってどれほど重要なことか再確認いたしました。先日、とても印象的な光景を目にしました。

とある男性患者さんの面会時のことです。その患者さんは病棟で過ごされている時は穏やかですが周囲にあまり関心を示しません。無表情でテレビを見つめ、私が話しかけても目を見て頷いてくれますが興味を持った様子はありません。その患者さんが妹さん達と面会をした時は見たことのないような笑顔が浮かべていました。「お兄ちゃん」と呼ばれると、照れたような嬉しそうな顔をし、妹さん達がお帰りになる際はガラス扉越しに一生懸命に手を振っていました。患者さんにとってご家族と過ごす時間はたとえ短くても日々を生きる力になっているのだと改めて感じました。

ご家族の皆様も患者さんに元気な姿で会えるようにお体ご自愛ください。

